

I 沿革(その1)

(2016年・平成28年度 版)

【ゲートボールの誕生】

1947年(昭和22年)、北海道在住の「鈴木和信」氏により、ゲートボールは誕生しました。

戦後の混乱期の中、満足な遊具のない子供たちに手軽に遊べるゲームをと、当時、西欧で行われていた「クロッカー」をヒントに、1チーム5名、2チームが対戦するゲームとして考案され誕生したのです。

鈴木氏の働きかけで、当時の新スポーツのバドミントンと、人気を二分するスポーツに育って行きました。

【ゲートボールの全国への普及】

1948年(昭和23年)～1958年(昭和33年)、北海道で育ったゲートボールは、海を越え全国へ普及して行きました。1950年(昭和25年)には、「日本ゲートボール協会」が設立されました。

そして、1958年(昭和33年)、東京で、「第1回東京都知事杯全日本ゲートボール総合選手権大会」が開催されるに及んで、ゲートボールはレクリエーションの域から、一つの競技スポーツとして、一人立ちしたのです。

【ゲートボール人気の衰退と復興】

1959年(昭和34年)、この頃から、経済第一の風潮が強まり、スポーツを楽しむ精神的・時間的余裕が無くなり、ゲートボールは休眠状態に入って行きました。

一方、この頃、熊本市在住の「上妻一郎」氏は、ゲートボールの手軽さに目をつけ、町内の婦人会で指導を始め、これが、ゲートボールの人気復活への、そして、昭和50年代の爆発的ブームへのきっかけになったのです。

協会の乱立や、ルールの不統一などの諸問題を克服して、1984年(昭和59年)に、現組織の前身である「財団法人日本ゲートボール連合」という全国組織が設立されました。

以降、この組織で、ゲートボールの普及を図る各種事業が全国規模で展開され、今日に至っています。(平成24年に「公益財団法人日本ゲートボール連合へ名称変更」)



【ゲートボールの特徴】

ゲートボールは

- ① 手軽にやってみたい人
- ② よりゲートボールを楽しみたい人
- ③ 競技大会での優勝を目指して、技能に磨きをかけたい人

の夫々が、自分の目的に合わせて楽しめるスポーツです。

そして、特別な体力が要らないので、男女の区別なく、高齢者や身体障害者の「生涯スポーツ」として、また、ジュニアや青壮年者には「頭を使う」スポーツとして適していると云われています。

【主な、全国ゲートボール大会】

今日、日本ゲートボール連合が、ゲートボールの普及のために行っている事業には、次のような大会があります。(毎年開催)

- ①**文部科学大臣杯「全日本ゲートボール選手権大会」** → 各都道府県の代表チームで競う大会
- ②**全国選抜ゲートボール大会** → 男女別、年齢別(18～65才まで、65才～)の、4クラスの都道府県代表チームが競う大会
- ③**全国社会人ゲートボール大会** → 職域、地域でゲートボールを楽しんでいる社会人チーム(企業など)で競う大会
- ④**内閣総理大臣杯「全日本世代交流ゲートボール大会」** → 年齢が～15才、15才～65才、65才～の三世代で構成された都道府県の代表チームで競う大会
- ⑤**全国ジュニアゲートボール大会** →
 - ・一部クラス : 男子、女子 (年齢15才～18才)
 - ・二部クラス : 年齢6才～15才までの3クラスの都道府県代表チームで競う大会

他に、「**全国高等学校ゲートボール選手権大会**」(通称:ゲートボール甲子園)があり、また、世界ゲートボール連合主催の、4年に1回開催されている「**世界ゲートボール選手権大会**」もあります。

II 沿革(その2)

【富士市ゲートボール協会の設立】

日本ゲートボール連合は、傘下の都道府県・市町村からなる、各団体に構成されています。

その一つである市の団体として、**1979年(昭和54年)**に、「**富士市ゲートボール協会**」が設立され、翌年には諸規程類が制定されました。

これにより、協会の目的である「ゲートボール愛好者や団体相互の親睦を図り、併せ、ゲートボールの健全な普及、発展に寄与する」ための体制が整いました。

以降、初代会長から現8代目の会長までに、夫々の、その重責の全うにより、現在の、しかとした協会の基盤が築き上げられました。

【富士市ゲートボール協会の活動状況】

現在行っている活動は、大きく分けて、次の4つつ(①～④)があります。

①日頃、地域ごとで、集まれた人数で楽しむゲートボール

②競技大会を通してゲートボールを楽しむ。次がこの競技大会の年間計画です。

- | | | | |
|------|------------------------------|-----------------|-----------------|
| ・4月 | 春季GB(*)大会 | ・11月 | 秋季GB大会 |
| ・8月 | 富士市ジュニアGB大会
世代交流GB大会 | ・2月 | 富士信金杯GB大会 |
| ・9月 | 富士市GB選手権大会 | ・3月 | 富士ニュース杯
GB大会 |
| ・10月 | 富士・富士宮親睦GB大会
富士市スポーツ祭GB大会 | (*) GB:ゲートボールの略 | |

③ジュニアの育成

③ー1 小学校のクラブ活動に、ゲートボールを取り入れて貰い、幣協会から指導者を派遣しています。そして、その練習成果を味わって貰う場として、夏に、毎年、「富士市ジュニアゲートボール大会」を開催しています。



③ー2 希望者を募って、幣協会の普及指導員が、技術面の指導を行ない、ゲーム力の養成・向上を図ります。ここで育った「富士ジュニア」チームは、「全国ジュニアゲートボール大会」の静岡県唯一の常連出場チームです。

④他地区(県・全国)の大会に出場し、高度な技能を習得する。

・全国大会 → 前記の「世代交流ゲートボール大会」、「全国ジュニアゲートボール大会」、「全国社会人ゲートボール大会」、「全国選抜ゲートボール大会」へ複数回出場し、入賞の実績があります。

・静岡県大会→「静岡県ジュニアゲートボール大会」、「静岡県ゲートボール選手権大会」、「長寿祭ゲートボール大会」では、複数回の優勝の実績があります。

【最後に】

「ゲートボールを始めてみたい方へ」

- ・近所に、ゲートボールをしている人がいたら、声をかけて見て下さい。
- ・近くで、ゲートボールのゲームをしている人を見かけたら、声をかけて見て下さい。
- ・このHPの事務局に、声をかけて下さい。お近くの会員を紹介します。

「協会の課題」

幣協会には、会員数の漸減、高齢化の進行などの諸課題が押し寄せています。ジュニア、ミドル層の会員をいかに増やしていくか、難しい課題への挑戦が必要な時期にさしかかっています。 (文責 : 富士市ゲートボール協会・事務局)